

2
(月)

神に祝福された結婚

創世記二四章――27節

そこで彼は祈った。「主人アブラハムの神、主よ。どうか今日、私のためにしかるべく取り計らい、主人アブラハムに慈しみを示してください。」(12)

息子イサクの結婚相手を得るために、アブラハムは最も信頼を寄せる年長の僕を呼び、自分の故郷へ行って相應しい女性を捜すように頼みます。その地に着的た僕は、まず初めに神に向かつて祈りをささげます。自分の力で捜すのではなく、神がこの結婚を導き、イサクに最も相應しい女性を神が与えてくださるようになるの信仰の表れでした。祈りが終わらないうちに、のちにイサクの妻となるリベカが目の前に現れました。僕は自分が祈った通りの、いやそれ以上の女性と出会った驚きと感動をもって早速主に礼拝をささげます。イサクの大切な結婚相手を探すにあたり、まず初めに神に導きを祈り、その相手を発見してまた神に感謝の祈りをささげました。この結婚は初めから最後まで神の導きと祝福によるものでした。何か大きな決断をするようなとき、このような信仰姿勢に倣いたいものです。